

# Oracle Enterprise Manager Cloud Control NEC Storage Plug-in

## 概要

IT システムが社会に浸透しインフラストラクチャとして重要な役割を担う時代にいたり、その性能を保つということがシステム管理者として非常に重要なことになっています。その中でもストレージシステムはシステムにおける最終的なデータストアとして、その入出力の性能がシステム全体の性能に大きな影響を及ぼします。

ストレージシステムも IT 技術の進歩に伴い高機能化・複雑化しており、それによって性能情報の把握も容易ではなくなるとともに、ストレージシステムを利用する立場であるデータベース管理者への負担ともなります。そのような状況に対して、データベースの論理的な構成とストレージシステムの構成の把握が容易になり、またそのストレージシステムの性能を知ることができれば、問題解決に大いに役立ちます。

NEC Storage Plug-in は Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c を拡張するプラグインソフトウェアであり、Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c から NEC Storage を監視する機能を提供します。その機能は以下の通りです。

- ✓ NEC iStorage D, M シリーズを監視
- ✓ データベースファイルと ASM ディスク、論理ディスク、OS デバイスの関連付け
- ✓ NEC iStorage の構成情報の収集
- ✓ 性能情報、構成情報に対するしきい値を基にした警告、違反のチェック
- ✓ 収集したデータのレポート作成
- ✓ 遠隔からの監視

## サポートされる製品バージョン

- ✓ Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c (12.1) 以上  
Bundle Patch 1 が適用されている必要があります。
- ✓ Oracle Management Agent 12.1.0.1 以上
- ✓ Oracle Database 10g Release 2 (10.2.0) 以上
- ✓ NEC iStorage D, M シリーズ
- ✓ WebSAM iStorageManager Ver5.1 以上  
(iStorageManager Express では動作しません)
- ✓ WebSAM iStorageManager ボリューム表示コマンド Ver5.1 以上
- ✓ WebSAM Storage Performate

## 前提条件

プラグインをデプロイするためには以下の項目を満たしている必要があります。

- Enterprise Manager Cloud Control (Oracle Management Service: OMS) サーバ
  - ✓ Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c (12.1 以上)がインストールされていること
    - ※注意事項: NEC Storage Plug-in が正しく動作するためには以下のパッチが適用されている必要があります。
      - Enterprise Manager Cloud Control 12c Release 12.1.0.1 Bundle Patch 1
        - ◇ パッチの番号は **13242773** になります。
        - ◇ Bundle Patch 1 が適用済みとなる環境が構築されるインストーラも利用可能です。
  - ✓ Enterprise Manager Command Line Interface (EM CLI) クライアントが適切に動作するよう設定されていること
    - 手順などについては、「**Enterprise Manager コマンドライン・インタフェース (EMCLI)の設定**」(後述)を参照のこと
      - Java バージョン **1.6.0\_25** 以上が必要になります。(Enterprise Manager Cloud Control 12c (12.1)の場合)
- WebSAM iStorageManager サーバ
  - ✓ WebSAM iStorageManager Ver5.1 以上がインストールされていること
  - ✓ Oracle Management Agent (12.1.0.1 以上; 以降、管理エージェント)がインストールされていること
  - ✓ Enterprise Manager Command Line Interface (EM CLI) クライアントがインストールされていること (OMS サーバに同じ)
    - 詳細については、「**Enterprise Manager コマンドライン・インタフェース (EMCLI)の設定**」(後述)を参照のこと
  - ✓ WebSAM iStorageManager サービスが起動していること
  - ✓ ディスクアレイ装置が WebSAM iStorageManager の監視対象になっていること
  - ✓ ディスクアレイ装置に対する統計情報が蓄積されていること
    - 詳細については、「**iStorage ソフトウェア 性能監視機能利用の手引**」(製品マニュアル)を参照のこと
  - ✓ Management Agent の優先資格証明が適切に設定され、動作すること
    - 詳細については、「**優先資格証明の設定**」(後述)を参照のこと

### ※注意事項:

プラグインは iStorageManager が稼動するホストの管理エージェントにデプロイされる必要があります。

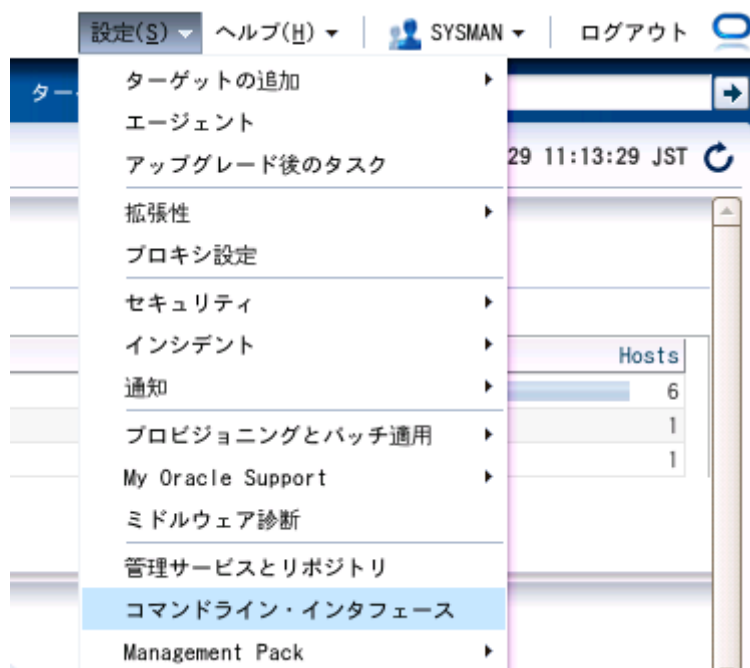
- データベースサーバ
  - ✓ 対応プラットフォーム: Linux (32bit), Linux (64bit), Solaris, HP-UX
    - ※Windows プラットフォームにつきましては、近日対応させていただく予定です。
  - ✓ Oracle Management Agent (管理エージェント) 12.1.0.1 以上がインストールされていること
  - ✓ Oracle Database 10g Release 2 (10.2.0) 以降がインストールされていること
  - ✓ WebSAM iStorageManager ボリューム表示コマンド(iSMvollist)が Ver5.1 以上であること
  - ✓ iSMvollist コマンドによってボリュームリストが作成されていること  
詳細については、「iStorage ソフトウェア iStorageManager 利用の手引(UNIX 版)」もしくは、「iStorage ソフトウェア iStorageManager 利用の手引(Windows 版)」を参照のこと (どちらも製品マニュアル)
  - ✓ OS が Linux の場合、sg3-utils(および sg3-utils-libs)パッケージがインストールされていること
  - ✓ ホストの優先資格証明が適切に設定され、動作すること  
詳細については、「優先資格証明の設定」(後述)を参照のこと

## Enterprise Manager コマンドライン・インタフェース (EMCLI)の設定

Enterprise Manager Cloud Control のサーバ、および WebSAM iStorageManager が稼働しているホストでは Enterprise Manager コマンドライン・インタフェース(EMCLI)が適切に動作する必要があります。

インストールおよび設定手順は Enterprise Manager Cloud Control から確認できます。

1. Enterprise Manager Cloud Control へのログイン後、右肩にある”設定”メニューをクリックするとプルダウンメニューが開きます。その中の”コマンドライン・インタフェース”を選択します。(Enterprise Manager コマンドライン・インタフェースのダウンロードのページが表示されます。)



2. 「EM CLI キットをワークステーションにダウンロードします。」という文章がリンクになっていますので、それをクリックし”emclikit.jar”をダウンロードしてください。その後は、そのページに書かれたコマンドを行います。

**Enterprise Manager コマンドライン・インタフェースのダウンロード**

EM CLIクライアントを管理ネットワーク内の任意のマシンにインストールし、Enterprise Manager CLIへのスクリプト・アクセスを可能にするように設計されています。Enterprise Managerの最新バージョン

**要件**

EM CLIをインストールするには、次のものがが必要です:

- Javaバージョン1.6.0\_25以上
- Solaris、Linux、HPUX、Tru64、AIXまたはNTFSのWindows(クライアント・インストール)が稼働している

**EM CLIクライアントのインストール**

- EM CLIキットをワークステーションにダウンロードします。
- JAVA\_HOME環境変数を設定し、PATHに含まれていることを確認します。Java 1.6.0\_25以上をインストールする場合は、以下を実行してください。
  - `setenv JAVA_HOME /usr/local/packages/j2sdk1.6.0_25`
  - `setenv PATH $JAVA_HOME/bin:$PATH`
- EM CLIクライアントをインストールします。EM CLIのクライアント部分を、OMSと同じマシンにインストールします。
  - `java -jar emclikit.jar client -install_dir=<emcli client dir>`
- "setup"動詞を使用して特定のOMSのクライアントを構成する方法を参照するには、EM CLIクライアントのインストールガイドを参照してください。

- インストール
 

```
$ java -jar emclikit.jar client -install_dir=(インストールするディレクトリ)
```
- 設定:
 

```
$ emcli setup -url="EMCC の URL"
```

## 優先資格証明の設定

プラグインがデプロイされるホスト(iStorageManager が稼働しているホスト)の管理エージェントおよび監視対象とするデータベースが稼働するホストに対するすべての優先資格証明が適切に設定されている必要があります。以下の手順に従って、設定を行ってください。

### OS ユーザが **sudo** コマンドを実行するための設定 (Unix の場合のみ)

優先資格証明として設定された OS ユーザには iSMview コマンドや iSMvllist コマンドを実行するための権限が付与される必要があります。そのために、以下の手順に従って設定を行ってください。

1. プラグインがデプロイされる管理エージェント(iStorageManager が稼働しているホスト上の管理エージェント)において、OS ユーザが **sudo** コマンドによって、iSMview コ

マンドを実行できるように構成する。

2. 監視対象となるデータベースが稼動している全てのホスト(データベースサーバ)において、OS ユーザが `sudo` コマンドによって、`iSMvolland` コマンドを実行できるように構成する。

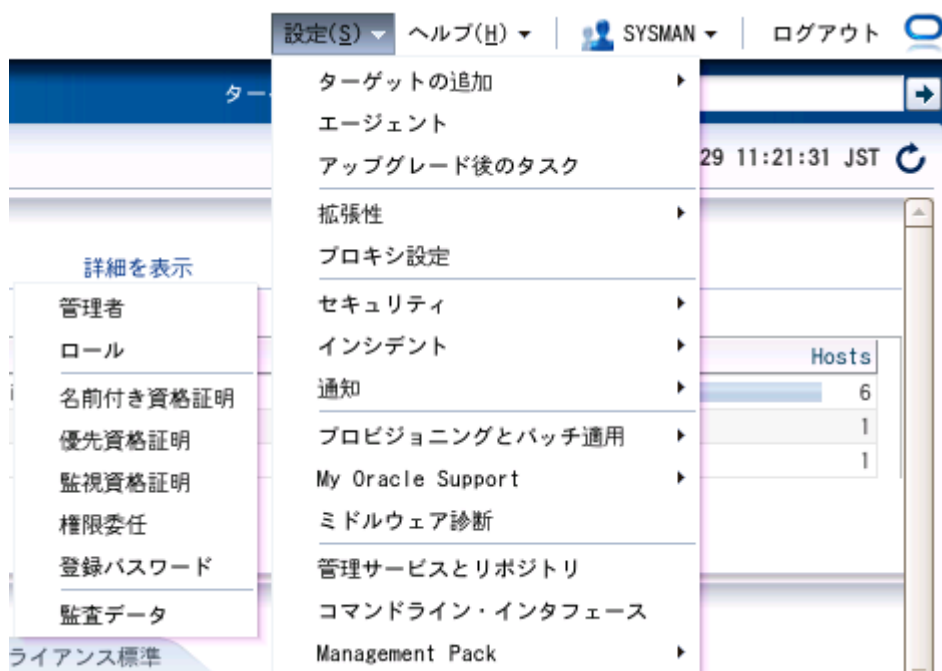
#### ユーザへのデータベースへのアクセス権限の付与 (Unix の場合のみ)

優先資格証明として設定された OS ユーザには `sysdba` としてデータベースをモニタする権限を付与される必要があります。そのユーザが `dba` グループに属しているかを確認してください。

#### 管理エージェントに対する優先資格証明の設定と確認

プラグインをデプロイする管理エージェントでは次の手順で資格証明を設定してください。

1. Enterprise Manager Cloud Control にログインし、右肩にある**設定**メニューをクリックするとプルダウンメニューが開きます。その中の**セキュリティ**という項目を選択するとさらにサブメニューが開きますので、その中の**優先資格証明**を選択します。(優先資格証明のページが表示されます。)



- ターゲット・タイプが「エージェント」の行を選択し(行の色が変わった状態)、“優先資格証明の管理”をクリックします。

**ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12c**

Enterprise(E) ▼ ターゲット(I) ▼ お気に入り(F) ▼ 履歴(Q) ▼

### セキュリティ

#### 優先資格証明

管理するターゲットへのアクセスを簡略化するために優先資格証明を使用できます。ターゲットI  
す。  
各ターゲット・タイプにデフォルトの資格証明を設定できます。デフォルトの資格証明は、優先

 優先資格証明の管理

ターゲット・タイプ ▲▼	ターゲット合計
Oracle Management Service	1
Oracle VM Manager	1
Oracle WebLogicサーバー	3
Oracle WebLogicドメイン	1
Oracleホーム	12
Oracle高可用性サービス	2
アプリケーション・デプロイメント	4
<b>エージェント</b>	<b>4</b>
クラスタ	1
クラスタ・データベース	1
データベース・インスタンス	3

3. “ターゲット優先資格証明”から対象となるターゲットを選択し、“設定”します。初めての  
場合は、ユーザ名・パスワードを入力し、優先資格証明を作成のうえターゲットに  
対して設定することになります。既に優先資格証明がある場合は、同じものを他のタ  
ーゲットに対して設定することもできます。

**ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12c**

Enterprise(E) ▼ ターゲット(T) ▼ お気に入り(F) ▼ 履歴(O) ▼

### セキュリティ

優先資格証明 > エージェント

#### エージェント 優先資格証明

優先資格証明を設定するには、適切な表で「設定」をクリックします。アソシエーションをクリアするに  
示をクリックすると、資格証明セットに対するすべての参照が表示されます。

▼ デフォルトの優先資格証明

次の「ターゲットの資格証明」表で資格証明を設定されていないターゲットには、デフォルトの資格証明が

資格証明セット	ターゲット・ユー ザー名	資格証明名
Host Credentials		

▼ ターゲット優先資格証明

ターゲットの資格証明は、各ターゲットに対して指定できます。設定されている場合、ターゲットの資格証  
明

ターゲット名  資格証明セット  検索

設定 クリア テスト 参照の表示

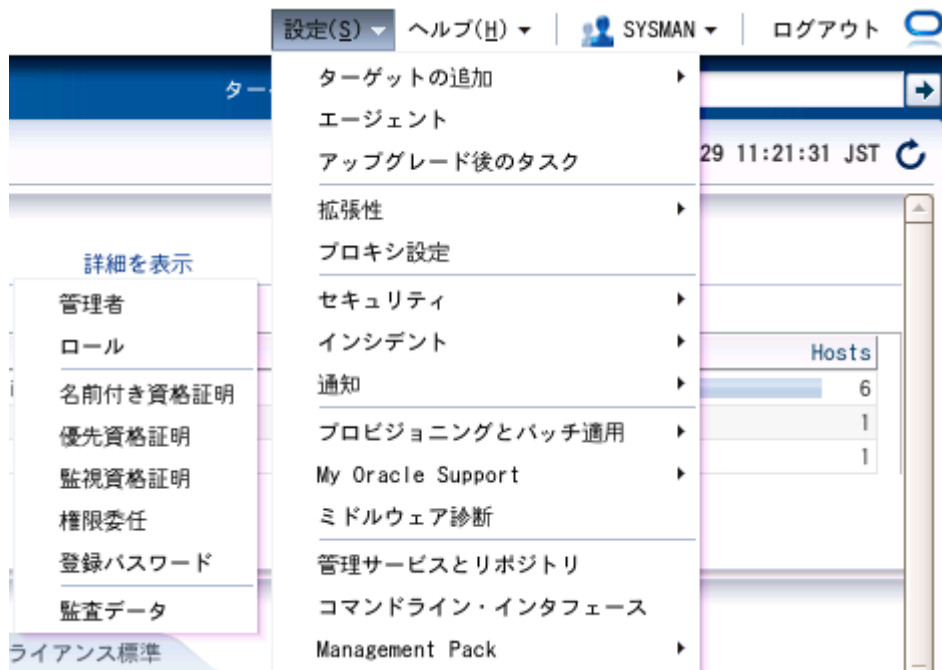
ターゲット名	ステータス	資格証明セット
sigma1.ngclocal.com:3872	↑	Host Credentials
sigma3.ngclocal.com:3872	↑	Host Credentials
sigma4.ngclocal.com:3872	↑	Host Credentials

#### データベースサーバに対する優先資格証明と設定の確認

以下の手順に従って、監視したいデータベースが稼動しているホスト(データベースサーバ)  
に対する優先資格証明を設定してください。

1. Enterprise Manager Cloud Control にログインし、右肩にある“設定”メニューをクリッ  
クするとプルダウンメニューが開きます。その中の“セキュリティ”という項目を選択す  
るとさらにサブメニューが開きますので、その中の“優先資格証明”を選択します。(優  
先資格証明のページが表示されます。)





2. ターゲット・タイプが「ホスト」の行を選択し(行の色が変わった状態)、「優先資格証明の管理」をクリックします。

## ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12c

Enterprise(E) ▼ ターゲット(T) ▼ お気に入り(E) ▼ 履歴(Q) ▼

### セキュリティ

#### 優先資格証明

管理するターゲットへのアクセスを簡略化するために優先資格証明を使用できます。ターゲットにアクセスする。  
各ターゲット・タイプにデフォルトの資格証明を設定できます。デフォルトの資格証明は、優先資格証明です。

優先資格証明の管理

ターゲット・タイプ ▲▼	ターゲット合計
Oracle WebLogicドメイン	1
Oracleホーム	12
Oracle高可用性サービス	2
アプリケーション・デプロイメント	4
エージェント	4
クラスタ	1
クラスタ・データベース	1
データベース・インスタンス	3
ビーコン	1
<b>ホスト</b>	<b>4</b>
メタデータ・リポジトリ	2
リスナー	6
自動ストレージ管理	2

3. “ターゲット優先資格証明”から対象となるターゲットを選択し、“設定”を行います。対象とする資格証明セットは「通常ホスト資格証明」になります。初めての場合は、ユーザ名・パスワードを入力し、優先資格証明を作成のうえターゲットに対して設定することになります。既に優先資格証明がある場合は、同じものを他のターゲットに対して設定することもできます。

**ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12c**

Enterprise(E) ▼ ターゲット(I) ▼ お気に入り(E) ▼ 履歴(Q) ▼

## セキュリティ

優先資格証明 > ホスト

### ホスト 優先資格証明

優先資格証明を設定するには、適切な表で「設定」をクリックします。アソシエーションをクリアする表示をクリックすると、資格証明セットに対するすべての参照が表示されます。

▼ デフォルトの優先資格証明

次の「ターゲットの資格証明」表で資格証明を設定されていないターゲットには、デフォルトの資格証明

資格証明セット	ターゲット・ユーザー名	資格証明名
通常ホスト資格証明		
特権ホスト資格証明		

▼ ターゲット優先資格証明

ターゲットの資格証明は、各ターゲットに対して指定できます。設定されている場合、ターゲットの資格

ターゲット名  資格証明セット  検索

ターゲット名	ステータス	資格証明セット
sigma1.ngclocal.com	↑	通常ホスト資格証明
sigma1.ngclocal.com	↑	特権ホスト資格証明
sigma3.ngclocal.com	↑	通常ホスト資格証明
sigma3.ngclocal.com	↑	特権ホスト資格証明

## プラグインのインポート

前提条件を満たしていることが確認できれば、まずはプラグインをインポートします。

1. 以下の URL より NEC Storage 用プラグイン(のアーカイブファイル)を OMS サーバへダウンロードします。  
[http://www.nec.co.jp/middle/oracle/storage-plugin\\_jp.html](http://www.nec.co.jp/middle/oracle/storage-plugin_jp.html)
2. OMS サーバにて EMCLI を利用して、プラグインを Cloud Control にアップロードします。

例: (-file で指定するプラグインのファイル名は絶対パスで記述してください。下記は改行されて表示されていますが、実際には一行です。)

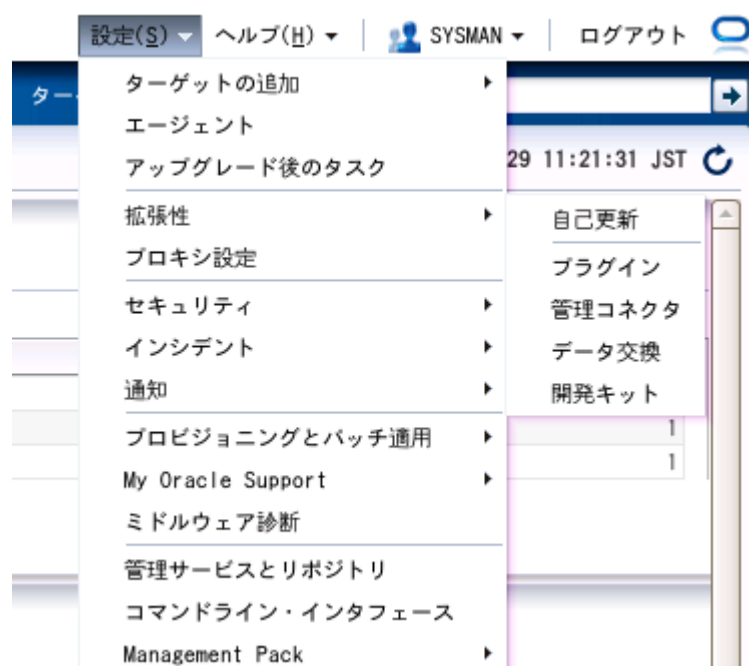
```
$ /home/oracle/emcli/emcli import_update
```

```
-file="/home/oracle/12.1.0.1.0_NEC.Storage.SAN_2000_0.opar" -omslocal
```

## プラグインのデプロイ

次にインポートされたプラグインを管理サーバおよび管理エージェントにデプロイします。

1. Enterprise Manager Cloud Control にログインし、右肩にある**設定**をクリックし、プルダウンメニューを開きます。その中の**拡張性**を選ぶとさらにサブメニューが開きます。その中から**プラグイン**を選択します。



2. プラグインのページの中で、**NEC Storage** プラグインは**サーバー、ストレージおよびネットワーク**に含まれます。リストが折りたたまれている場合にはこれを開きます。

3. “**NEC Storage**”を選択(クリックし、その行にフォーカスが当たっている状態)し、表の上部にある、“**デプロイ先**”メニューから“**管理サーバー**”を選択します。リポジトリデータベースのパスワード(SYS のパスワード)を入力しウィザードに従って進めます。



4. 次に管理エージェントへのデプロイを行います。“**デプロイ先**”メニューから“**管理エージェント**”を選択します。管理エージェントのリストから iStorageManager が存在するエージェントを選択し、ウィザードに従って進めます。

管理サーバ、管理エージェントへのデプロイ後、ターゲットを追加します。次節にてを説明します。

### ターゲットの追加

以下の手順に従ってターゲットを追加します。この中で、監視対象とするストレージ装置、データベースインスタンスを指定します。

1. "設定"メニューから"ターゲットの追加"の中の"ターゲットの手動追加"を選択します。



2. "ターゲットの手動追加"で現れる選択可能な 3 項目の中から"ターゲット監視プロパティを指定して非ホスト・ターゲットを追加"を選択します。すると入力フォームが選択式の「ターゲットタイプ」と入力可能な(検索も可能)「監視エージェント」に変わります。ターゲットタイプでは"NEC Storage"を選択し、監視エージェントでは iStorageManager が稼動しているホストの管理エージェントを指定します。"手動追加"ボタンを押下し、先に進めます。

### ターゲットの手動追加

ホスト・ターゲットの追加

ガイド付きプロセスを使用して非ホスト・ターゲットを追加(関連ターゲットも追加)

ターゲット監視プロパティを指定して非ホスト・ターゲットを追加

ターゲット・タイプ

監視エージェント

3. “追加 NEC Storage”というページに遷移しますので、ここで監視対象とするストレージ、データベースの情報を入力します。項目名の前に'\*' (アスタリスク)がある項目は入力が必要になります。

## ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12c

**追加 NEC Storage**  
 ターゲット監視プロパティを指定することで、Enterprise Managerで監視するターゲットを追加します。

ターゲット名

ターゲット・タイプ NEC Storage

エージェント https://sigma1.ngclocal.com:3872/en

\* Full Path of emcli

Path of Statistical History File (\*optional)

\* Instance Name of Database Targets

\* Instance Information of the Management Repository

\* User Name of the Management Repository

\* User Password of the Management Repository

\* Disk Array Name

- **ターゲット名** — Cloud Control 内の全ターゲットと重複しない名前。Cloud Control 上で表示される名前になります。  
 例: (iSMsvr\_\$(hostname))  
 iSMsvr\_sigma1
- **Disk Array Name** — 監視対象とするディスクアレイ個々の名前。複数ある場合は、それぞれをセミコロン(;)で区切って並べてください。  
 参考:  
 iStorageManager サーバ上で *iSMview -d* コマンドを実行するとディスクアレイ名が得られます。
- **Full Path of emcli** — iStorageManager サーバにインストールした emcli の絶対パス名  
 例:  
 /home/oracle/emcli/emcli
- **Path of Statistical History File (オプション)** — iStorageManager サーバ上にある統計情報の格納フォルダの絶対パス名  
 参考:  
 このプロパティを指定しない場合、以下のパスがデフォルト値となります。  
 /opt/iSMsvr/etc/mon

- **Instance Name of Database Targets** — Cloud Control 内にあるデータベースインスタンス名から監視対象としたいものの名前。複数のインスタンスを指定する場合はそれぞれをセミコロン(;)で区切って並べてください。

例:

インスタンスが 1 つの場合: db10graw

インスタンスが 3 つの場合: db10gasm\_db10gasm1;db10gmount;db11graw

- **Instance Information of the Management Repository** — 管理リポジトリへ接続するための情報。フォーマットは以下。

<dbname>@<host>:<port>

例:

emrep@orasv:1521

- **User Name of the Management Repository** — 管理リポジトリの sysman スキーマにある表及びビューにアクセスするための適切なユーザ名

例:

sysman.

- **User Password of the Management Repository** — 上記の管理リポジトリにアクセスするためのユーザに対するパスワード

4. “接続テスト”ボタンをクリックし、記入したパラメータが適切かどうかを確認します。



5. 接続テストが問題ない場合、“OK”ボタンを押し作業を完了させます。

### 管理エージェントの設定変更

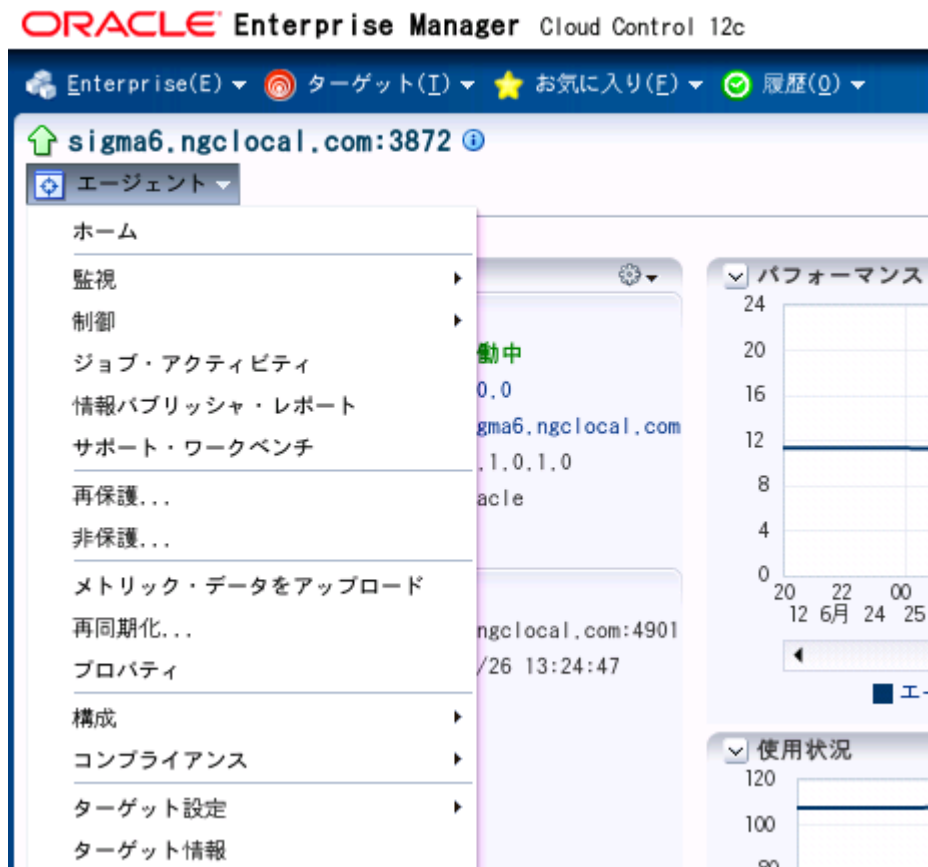
プラグインでは NEC Storage の構成および性能に関するメトリックを定義しています。その収集間隔は 5 分です。一方、管理エージェントによるメトリックデータのアップロード間隔はデフォルトでは 15 分に設定されています。この管理エージェントのアップロード間隔をプラグインと一致させる必要があります。(データベースサーバおよび WebSAM iStorage Manager が稼働しているホストが対象)

1. “ターゲット”メニューの“すべてのターゲット”で現れるリストから管理エージェントを選択します。「管理サービスとの相互作用」の最下行にある”エージェントのアップロード間隔(分)”を確認します。ここが既に 5 分になっている場合は、変更の必要はありません。

The screenshot displays the Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c interface. The top navigation bar includes 'Enterprise(E)', 'ターゲット(I)', 'お気に入り(F)', and '履歴(Q)'. The main header shows the target 'sigma6.ngclocal.com:3872' and a dropdown for 'エージェント'. The left pane is titled 'サマリー' and contains two sections: '一般' and '管理サービスとの相互作用'. The '一般' section lists: ステータス 稼働中, 可用性(%) 100.0, ホスト sigma6.ngclocal.com, バージョン 12.1.0.1.0, and オペレーティング・システム・エージェントのユーザー名 oracle. The '管理サービスとの相互作用' section lists: アップロード先 sigma3.ngclocal.com:4901, 最後に成功したアップロード 2012/06/26 13:24:47, エージェントに対する管理サービスのレスポンス時間 (ミリ秒) 28, 管理サービスに対するエージェントのレスポンス時間 (ミリ秒) -100, エージェントのハートビート間隔(秒) 60, and エージェントのアップロード間隔(分) 15. The right pane shows two charts: 'パフォーマンス' with a line graph at 12 and '使用状況' with a line graph at 100. The x-axis for both charts is labeled '12 6月 24 25'.



2. “エージェント”メニューから”プロパティ”を選択します。



3. 10 個の「基本プロパティ」の最下行に”UploadInterval”があります。これを’5’に変更します。

ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12c

Enterprise(E) ▼ ターゲット(I) ▼ お気に入り(E) ▼ 履歴(Q) ▼

↑ sigma6.ngclocal.com:3872 ⓘ

エージェント ▼

### プロパティ

表示 基本プロパティ ▼

名前	値
agentVersion	12.1.0.1.0
agentTZRegion	Japan
emdRoot	/u01/app/oracle/product/12.1.0/agent/core/12.1.0.1.0
agentStateDir	/u01/app/oracle/product/12.1.0/agent/agent_inst
perlBin	/u01/app/oracle/product/12.1.0/agent/core/12.1.0.1.0/perl/bin
scriptsDir	/u01/app/oracle/product/12.1.0/agent/core/12.1.0.1.0/sysman/admin/scripts
EMD_URL	https://sigma6.ngclocal.com:3872/emd/main/
REPOSITORY_URL	https://sigma3.ngclocal.com:4901/empbs/upload
EMAGENT_PERL_TRACE_LEVEL	INFO ▼
UploadInterval	15

基本プロパティ: 10

Enterprise(E) ▼ ターゲット(T) ▼ ★ お気に入り(E) ▼ 履歴(O) ▼

↑ sigma6.ngclocal.com:3872 ⓘ

エージェント ▼

### プロパティ

表示 基本プロパティ ▼

名前	値
agentVersion	12.1.0.1.0
agentTZRegion	Japan
emdRoot	/u01/app/oracle/product/12.1.0/agent/core/12.1.0.1.0
agentStateDir	/u01/app/oracle/product/12.1.0/agent/agent_inst
perlBin	/u01/app/oracle/product/12.1.0/agent/core/12.1.0.1.0/perl/bin
scriptsDir	/u01/app/oracle/product/12.1.0/agent/core/12.1.0.1.0/sysman/admin/scripts
EMD_URL	https://sigma6.ngclocal.com:3872/emd/main/
REPOSITORY_URL	https://sigma3.ngclocal.com:4901/empbs/upload
EMAGENT_PERL_TRACE_LEVEL	INFO ▼
UploadInterval	5

基本プロパティ: 10

4. 右上にある「適用」ボタンを押します。

設定(S) ▼ ヘルプ(H) ▼ | SYSMAN ▼ | ログアウト

ターゲット名の検索 ▼

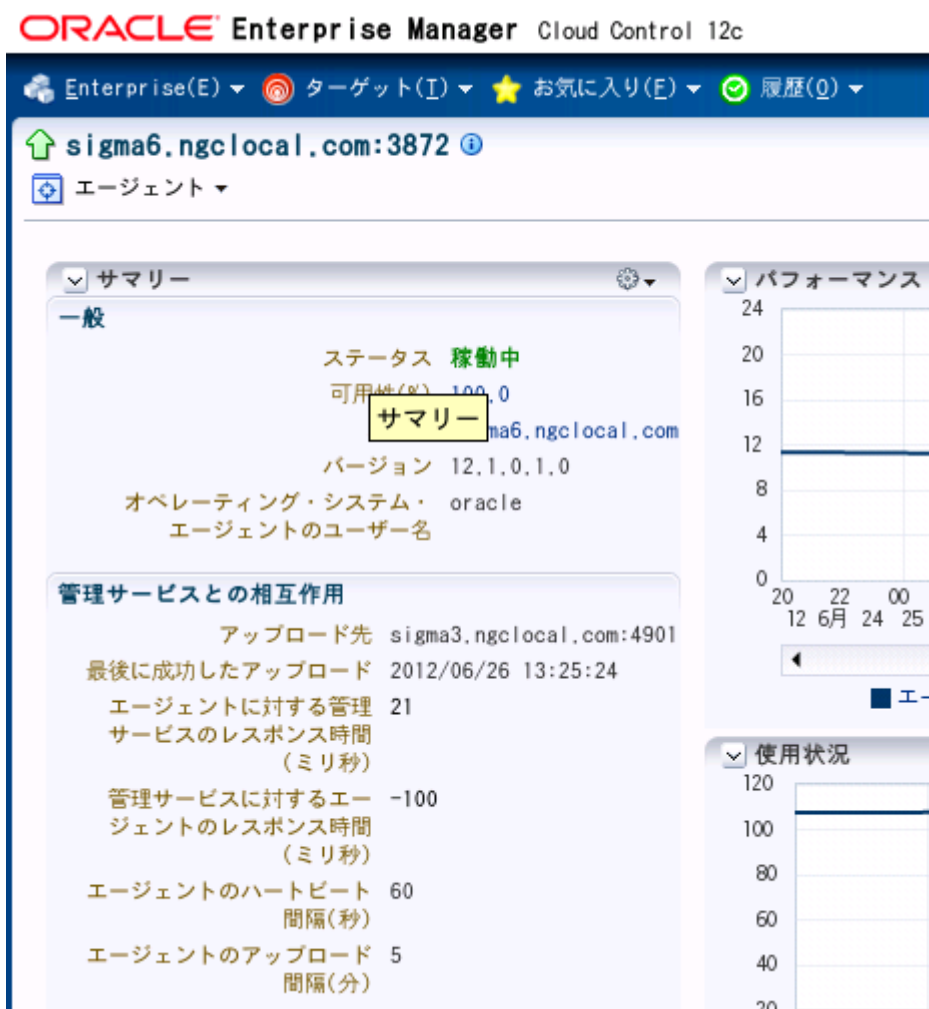
sigma6.ngclocal.com

ページ・リフレッシュ 2012/06/26 13:27:34 JST

適用 元に戻す

適用

5. エージェントのホームに戻り、“エージェントのアップロード間隔(分)”が変更されていることを確認します。



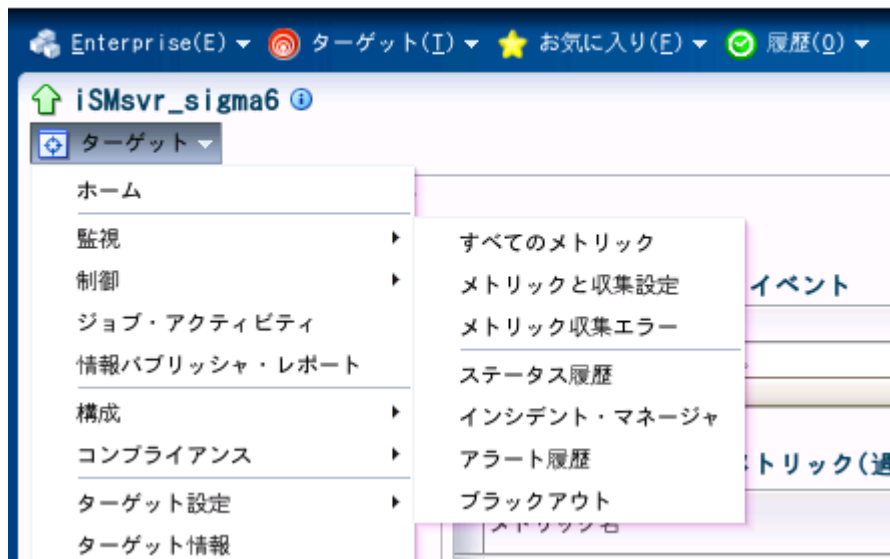
### プラグインの動作確認

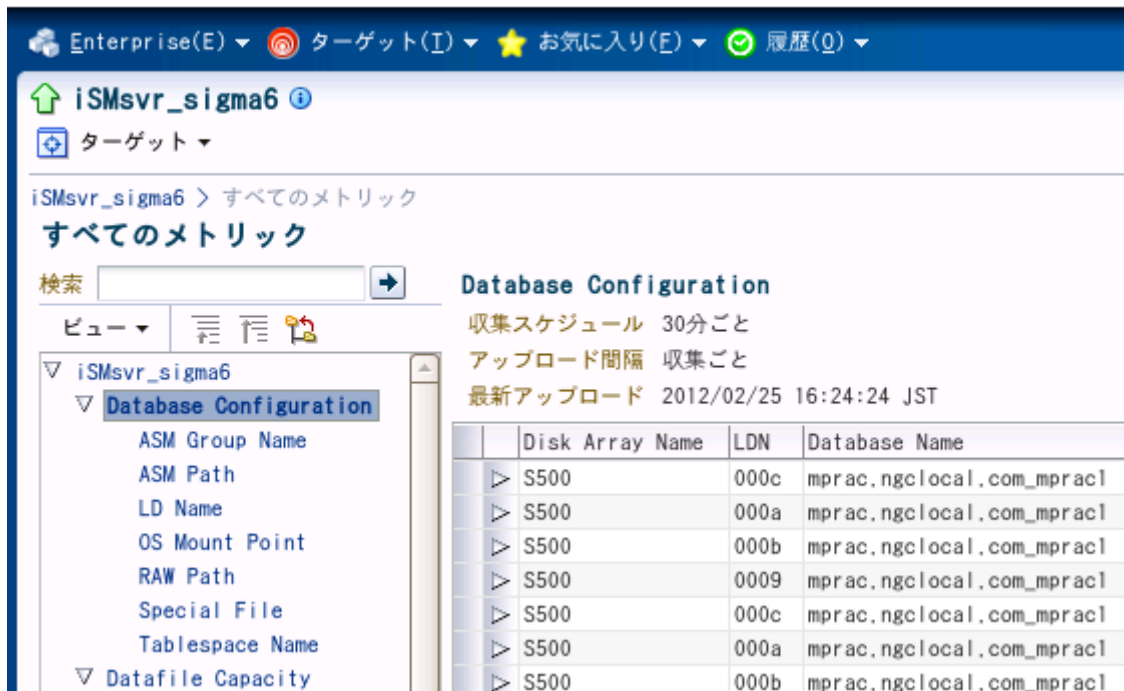
プラグインがデータの収集を始めて数分経てば、以下の手順に従って、Enterprise Manager Cloud Control が正しく対象を監視しているかどうかを確認することができます。

1. “ターゲット”メニューの“すべてのターゲット”で現れるリストに先に追加したターゲットが現れます。その名前をクリックすると、NEC Storage のホームが表示されます。



2. “ターゲット”メニューから”監視”を選択し、さらに”すべてのメトリック”を選択するとメトリックデータを参照できます。





3. “ターゲット”メニューから”情報パブリッシャ・レポート”を選択し、その中から NEC Storage のレポートを選択します。デプロイ直後はデータの収集がまだ行われていないことがあります。



Enterprise(E) ▼ ターゲット(I) ▼ お気に入り(E) ▼ 履歴(Q) ▼

### 情報パブリッシャ・レポート

**検索**

タイトル  ターゲット・タイプ NEC Storage  
 所有者  ターゲット名

|

すべて開く | すべて閉じる

選択	タイトル	説明
<input type="radio"/>	▼ 情報パブリッシャ・レポート	
<input type="radio"/>	▼ NEC Storage Information	
<input type="radio"/>	▼ Configuration	
<input checked="" type="radio"/>	Configuration Information	Displays configuration in
<input type="radio"/>	▼ Performance	
<input type="radio"/>	Logical Disk Performance	Displays performance info

Enterprise(E) ▼ ターゲット(I) ▼ お気に入り(E) ▼ 履歴(Q) ▼

### 情報パブリッシャ・レポート

#### レポートのターゲットの指定

レポート Configuration Information

このレポートに含めるNEC Storageを指定します。

NEC Storage

Enterprise(E) ▼ ターゲット(I) ▼ ★ お気に入り(E) ▼ 履歴(O) ▼

情報パブリッシャ・レポート

**Configuration Information**

NEC Storage iSMsvr\_sigma6

---

**Summary Information**

Disk Array Name ▲	LDN	LD Name	Database Name	TableSpace Name
S500	0009h	20000030138408670009	mprac.ngclocal.com_mprac1	UNDOTBS2
S500	0009h	20000030138408670009	mprac.ngclocal.com_mprac1	USERS
S500	0009h	20000030138408670009	mprac.ngclocal.com_mprac1	UNDOTBS1
S500	0009h	20000030138408670009	mprac.ngclocal.com_mprac1	SYSAUX
S500	0009h	20000030138408670009	mprac.ngclocal.com_mprac1	SYSTEM

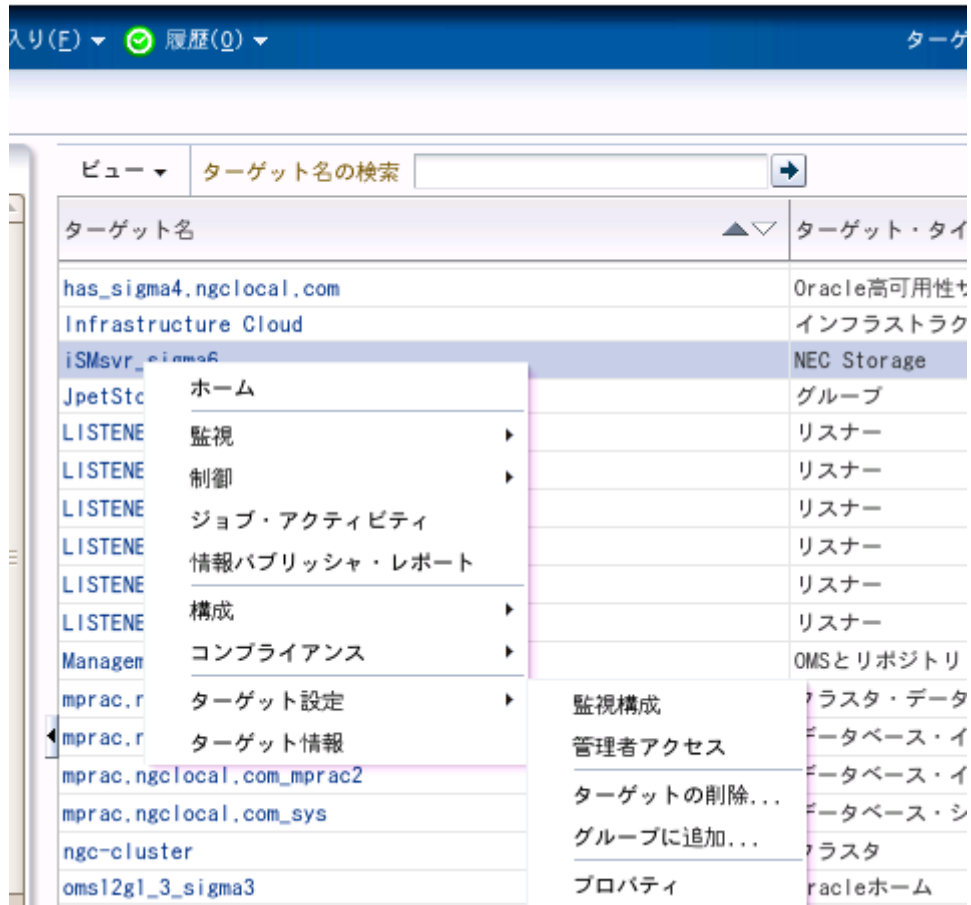
### プラグインのアンデプロイ

プラグインをエージェントからアンデプロイする場合は、デプロイとは逆の順になります。以下の手順に従ってください。:

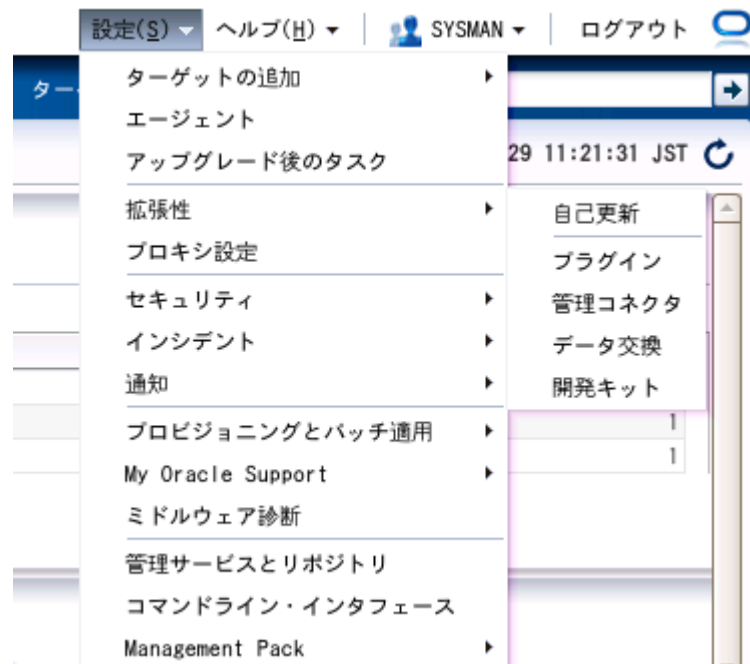
1. Enterprise Manager Cloud Control に管理者としてログインします。
2. “ターゲット”メニューの中から”すべてのターゲット”を選択します。作成したターゲットを右クリックすると、ポップアップメニューが現れます。その中から、”ターゲットの構成”の中の”ターゲットの削除”を選択します。確認を求められるので、OK ボタンでクリックしターゲットを削除します。



## Control 12c



3. "設定"メニューの"拡張性"の中の"プラグイン"を選択します。



4. NEC Storage プラグインを選択した状態で、アンデプロイ元メニューから”管理エージェント”を選択します。プラグインがデプロイされている管理エージェントを選択し、手続きを進めます。



5. 次に同じく、アンデプロイ元メニューから”管理サーバー”を選択します。リポジトリデータベースに対するパスワード(SYSのパスワード)を入力しアンデプロイを進めます。